



令和6年度

帯広市立つつじが丘小学校の研究

自他のよさを認め合い、磨き合う子どもの育成
～各教科におけるICTの活用を通して～



目指す子どもの姿

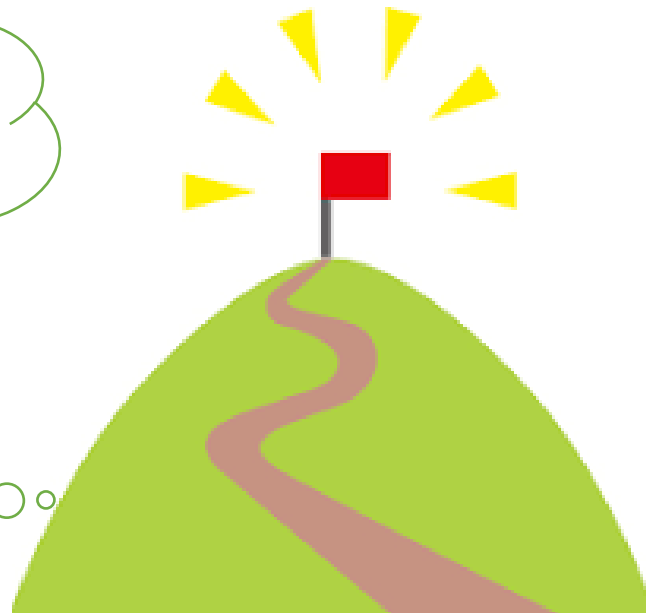
- 自ら課題を見つけ、課題解決に向けて自他を磨き合おうとする子
- ICTの活用を通して、自身の考えを広げたり深めたりする子

必要な力を身につけるため、 検証する研究仮説

- 仮説① 単元及び単位時間の中で、子どもが自己選択や自己決定することにより、主体的に学びに向かい、自らを磨き合う子どもが育つであろう。⇒個別最適な学び

どのルートで登ろう
かな・・・

ポール使おうかな・・・
ピッケル使おうかな・・・



登ってみたい！



例 国語 調べて話そう、生活調査隊



ドキュメントを使って発表原稿まとめたい

アンケートはフォームを使おうかな！

ネットでも調べてみようかな・・・

アンケート結果は手書きにしたい

スライドで説明しよう

テーマ

休日何してるか

仮説①の視点

- 子どもが主体的に学習に取り組めるような問題提示
- 子どもが「知りたい」「学びたい」と思うような課題、発問の工夫
- 課題を子どもの言葉から設定する⇒既習事項とのズレ
- 課題解決に向けて自己選択、自己決定させる場面を作る

例 分数のたし算の学習⇒図、数直線、小数になおす
社会 北陸工業地域 太平洋ベルトとのズレ
⇒漆器、めがね、水産加工など



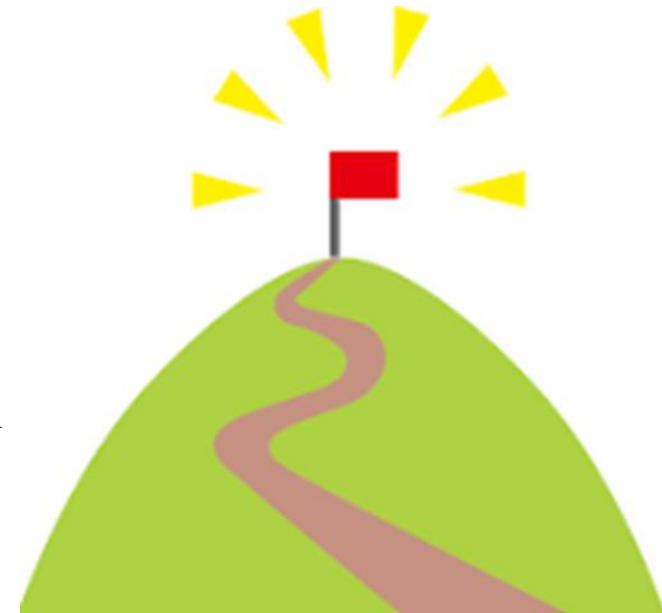
必要な力を身につけるため、 検証する研究仮説

- 仮説② 単元を通して、ICTを効果的に活用する場面を設定し、自他の考えを広げたり深めたりする子が育つであろう

⇒協働的な学び

昨年度に引き続き・・・

- 旗(ゴール)=単元目標
この単元でこんな姿になってほしい
- 単元デザイン=登山道を整備する
単元目標と単位時間のつながりを大切に！



ICTを授業のどの
の場面で使ったら効果的だろう？

探究学習では「課題の設定」「情報の収集」
「整理・分析」「まとめ・表現」の過程を経由する。



- 探究の過程を繰り返すことで、自らの考えや課題を新たに更新することができる。
- 日常生活や社会に目を向け、自ら課題を設定する力を身に付ける。

文部科学省【総合的な探究の時間編】高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説より



例 体育 短距離走

4月23日(火) 走り方チェック

自分の走り方を見て気づいたこと
・走ったときの足の幅がせまかった
・手を後ろまで降っていなかった

これから走る時に気をつけたいこと
・足の開いたときの幅
・手が見えるぐらいまで上げる
・走るときの姿勢に気をつける

体育「短距離走」
1時間目

自分の今の走り方チェック
ロイロで撮影(グループ)



NHKはりきり体育之介



自分の走り方を振り返る



自分の課題を見つける

去年の標準学力調査 + の結果

市内の学校と校内を比べて

【知識・技能】

+ 0.6

【思・判・表】

+ 2.2

**どの教科もプラス
でした!!!**

**社会・理科がマイナスでした。
他の教科でも自分の考えをもち、
友達と協働で学ぶ場面を増やしていきましょう!**

まとめ

- 子どもが自己選択、自己決定する場を設定⇒低・高・支援ブロックで形をつくっていききたい。
- 子ども話す時間>教師が話す時間⇒ICTを効果的に活用し、他者と協働して主体的に取り組む学習活動を取り入れる。



子どもを主語にした授業改善

【研究主題】

自他のよさを認め合い、磨き合う 子どもの育成



【低ブロック】

- 自分の考えを伝える場面を作り、他者と比較したり、考えを増やしたりし、再構築していく。
- 低学年は、話し合いの型や発表の仕方を提示し、練習することで、ペア、グループ、全体へと自信を持って伝えられるようにする。

【高ブロック】

- 発言力の有無に関わらず、考えを交流し、意見を肯定的に受け止める姿。
- 表現の方法を自分で選択決定し、表現する姿。
- 友達と考えを交流、共有した上で、次への学びに向かおうとする姿。
- 自分の発表や挙手など、学習参加の跡を視覚的に分かりやすく、積み上げていくことで自己肯定感を育てるきっかけにする。

【特別支援ブロック】

- 自己肯定感を上げ、自分の良さにまず気づく。
- 自分の考えを持つ。
- 相手の頑張りを心から認める。
- 些細なことが言えることもすごいというのをまず教師が伝え、そこから児童間でも誉め合える関係になる。
- 否定的な言葉をできるだけ使わない。